

## 令和 5 年度第 2 回西淀川区区政会議

1 開催日時：令和 5 年 9 月 26 日（火）午後 6 時 30 分～午後 8 時 6 分

2 開催場所：西淀川区役所 5 階 会議室

3 出席者の氏名：

（委員：敬称略、50音順）

麻井、伊関、井上、植木、浦中、大垣、大西、岡本、三本松、砂川、多田、田中、  
中田、西川、長谷部、藤江、藤田、藤浪、山本、吉田

（事務局：西淀川区役所）

中島区長、難波副区長、奥本総務課長、西尾政策共創課長、近藤地域支援課長、  
木村安全まちづくり担当課長、松本窓口サービス課長、貴志保健福祉課長、  
山城生活支援担当課長、横内こども福祉担当課長、青木保健主幹

（市会議員）

佐々木哲夫市会議員、山田かな市会議員

（府議会議員）

中川誠太府議会議員

## 4 議題

（1）区役所における令和 5 年度各種施策の取組状況について

（2）グループ討議「今後の区施策の展開について」

（3）その他

## 5 議事内容

### ○大垣議長

こんばんは。

ただいまから、令和 5 年度第 2 回区政会議を始めさせていただきます。

区役所から議題の進行について説明をお願いします。

## ○西尾課長

こんばんは。西淀川区役所政策共創課の西尾でございます。

本日の会議は現時点で20名の参加があり、定員27名の過半数を超えていることから、会議は成立していることを確認いたします。

次に、議事進行についてですが、次第を見ていただきますと、議題としまして「区役所における令和5年度各種施策の取組状況について」、グループ討議「今後の区施策の展開について」、そして「その他」を予定しております。

資料につきましては、次第の次に資料1ということで、配席表と名簿でございます。資料2として「にしよどがわ万博」のホッチキス留めの資料。資料3として、「グループ討議について」ということで1枚ものの資料。資料3-2「災害時の避難支援のために」ということでホッチキス留めの資料。そしてパンフレットが「健康いきいき展」「にしよどバル」「野外音楽フェスティバルin矢倉緑地」「庄野真代さんのコンサート」、そして「オープンファクトリー」のチラシでございます。

資料については以上でございます。もし、ない方等がおられましたら、挙手をお願いいたします。

本区政会議につきましては、ホームページや広報紙などで報告しますので、お写真を撮らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは議長、よろしくお願いいたします。

## ○大垣議長

議事が始まる前に、区長からご挨拶をよろしくお願いいたします。

## ○中島区長

どうも皆様、こんばんは。

夜遅くにまたお疲れさまのところご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

本日の区政会議でございますが、委員の皆様から2つ議題をいただいておりますので、その議題について十分に議論していただきたいと思いますのでございます。

区政会議ですけれども、皆様から頂きましたアンケートの中には「実際に議論したことが生かされているかどうか分からない」という意見もございました。皆様の意見はできるだけ区政に反映していきたいと思っておりますので、議題についても委員の皆様からこういうことを中心に議論していただきたいということを発表していただき、そこに的を絞って議論していただけたら、私どもとしましても方向性が出てくるのかなと思ってございますので、ぜひ皆様ご協力をどうぞよろしくお願いします。

本日は皆様どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○大垣議長

ありがとうございます。

それでは議題1としまして、「区役所における令和5年度各種施策の取組状況について」ということで、区役所から説明をよろしくお願いいたします。

#### ○西尾課長

私から資料2で「にしよどがわ万博」についてご説明させていただきます。「令和5年度の各種施策の取組状況について」ということで、例年とは違う新たな取組として、にしよどがわ万博についてご説明させていただきます。

この内容につきましては、広報紙「きらり☆にしよど」7月号やホームページ等で公表しておりますが、これまでにない新たな取組等ですので、簡単ではございますが説明させていただきます。

まず1ページ目です。にしよどがわ万博というのは、2025年に迎える西淀川区制100周年と大阪・関西万博の機運を地元から盛り上げるため、素晴らしいまち西淀川区を実現するための取組として進めております。

2ページ目にあります「にしよど健康No.1プロジェクト」でございますが、この取組は、企業や団体等と連携して取り組んでいる「ウェルビーイング（well-being）西淀川」の中でできたプロジェクトでございます。

にしよど健康No.1プロジェクトの具体的な取組については、3ページ目にあります

ように、7月に好文学園女子高等学校の生徒によるプロジェクトのロゴの作成や、ポスター作成、区公式LINEによる「健康推進ネット～がんについて知ろう～」の情報発信など、様々な取組を実施してまいりました。そして10月28日には「健康いきいき展」ということで、企業や団体なども新たに加わっていただいて新しい取組をたくさん企画しておりますので、皆さんぜひともご参加いただきたいと思います。チラシも添付しておりますので、よろしくお願いいたします。

4ページの「にしよどバル」でございます。にしよどバルは11月1日から5日を予定しており、現在、SDGsに取り組んでいる店舗を10月15日まで募集しております。参加店舗が増えるとますます西淀川が盛り上がってくると思いますので、皆さんのご協力をぜひともお願いしたいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

5ページでございます。「SDGsの取組企業・店舗等の推進」ということで、SDGsに取り組んでいる区内の企業や店舗についてホームページに掲載させていただいております。各企業や店舗の取組を広く周知することで、各企業等ができることを少しずつ実施していただこうと、その機運が区内全体に広がればいいかなと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

次は6ページでございます。「にしよど音楽祭」ということで、今年度初めての取組です。第一弾として8月に、夏休みファミリーコンサートを実施いたしました。

そして7ページでは、これから開催するイベントとして、11月3日に矢倉緑地で行われる野外音楽フェスティバル、11月5日に淀商業高等学校で行われる、ふるさと西淀川PR大使・庄野真代さんのコンサートです。庄野真代さんは、野里出身で西淀川区にゆかりのあるシンガーソングライターですので、皆さんもぜひとも参加いただいて盛り上げていただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

続きまして8ページはタイムカプセルでございます。区内の小・中学生に、2030年のSDGs達成年の西淀川区、大阪、日本、世界のあるべき姿などを描き、それに向かって自らが何をするか考え、思いを表現するメッセージを作成いただいております。大

阪・関西万博開催500日前イベントとして、令和5年11月30日にタイムカプセルに収納予定になっております。

その他にも、9ページにありますとおり区役所正面玄関のカウントダウンパネルの設置など、いろんなことをやらせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

これからも、区民の皆さんと企業等を巻き込んで西淀川区の活性化に努めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

区役所からの説明については以上でございます。

#### ○大垣議長

ありがとうございます。

ただいまの説明について、ご意見・ご質問がありましたら、挙手をしてから、発言をする前にお名前を言ってからお願いいたします。

どうぞ。

#### ○多田委員

多田です。

にしよどがわ万博が本当に素晴らしい取組なので、ぜひ積極的に参加したいですし、にしよどバルの店舗も呼びかけていきたいと思うのですけれども、例えば、これから我々が区内で開くようなイベントを、チームエキスポ登録等してにしよどがわ万博に加えていくといった、既存のイベントをにしよどがわ万博の称号を介していくことは可能なのか。

あと、こういうのをやるとなると、やっぱり博覧会協会とかと連携していきたいし、もうちょっと万博に取り組んで入っていきやすい仕組みができたらいいなと思いました。ありがとうございます。

#### ○大垣議長

ありがとうございます。

どうぞ。

○西尾課長

ご意見ありがとうございます。

イベントなどで我々と一緒にどうやって万博協会を巻き込んでいくかご相談させていただけたら、できることもあると思いますので、ぜひともよろしくお願いします。

○大垣議長

他にないようでしたら、次に移ってよろしいでしょうか。

そうしましたら、続きまして議題2のグループ討議に移ります。事務局からの趣旨の説明をお願いいたします。

○西尾課長

資料3でございます。「令和5年度第2回西淀川区区政会議グループ討議について」ということで、今回は事前にテーマを募集させていただきまして、「子育てしやすいまちづくり」、「災害時に支援が必要な方への取組み」の2つのテーマを選定させていただきました。委員の皆様には2つのどちらかのテーマについて討議いただきたいと思います。

それでは、グループ討議に先立ちまして、ご応募をいただいた委員の方に趣旨等をご説明いただきたいと思います。

まずは、「子育てしやすいまちづくり」をテーマにご応募いただいた大西様、お願いできますでしょうか。

○大西委員

大西です、よろしくお願いします。

今回テーマとしてご提案させていただいた「子育てしやすいまちづくり」ですけれども、区の中には「子育てサロン」や「に～よんステーション」等いろいろ場所としてはあるのですけれども、産後すぐでうちの中に引きこもってしまったお母さん方にとって、一歩外に出るということがまずはハードルが高い。その一歩を踏み出した

めに何かアイディアはないだろうかということで、今回テーマに挙げさせていただいて、皆さんからの意見をお聞かせいただけたらなと思いました。

私自身も、今でこそこれだけ地域に出ていますけれども、子育ての最初の時期は、子育て広場ひとつ行くのもためらって実際出られなかった側ですので、やっぱりそういう方々も多いというところも、皆さんに知っていただきたいなと思いました。

以上です。

**○大垣議長**

ありがとうございます。

**○西尾課長**

ありがとうございました。

続きまして、「災害時に支援が必要な方への取組み」についてお二人からご応募いただいております。

まずは山本委員からお願いできますでしょうか。

**○山本委員**

こんばんは、山本です。

災害時の場合の避難についてですけれども、私たち障がい者は、避難の状態を外へ出たときにもう動けないような状態なので、もちろん町会の方とのつながりで何とか誘導をお願いしたいのですが、以前に一斉訓練があったときに、かなり地域によって誘導の格差があったのです。その辺をもう少しちゃんとできないかなということをご提案したいと思います。

以上です。

**○西尾課長**

ありがとうございます。

**○大垣議長**

ありがとうございました。

○西尾課長

続きまして、三本松委員お願いできますでしょうか。

○三本松委員

私の提案理由としては、コロナ以前に、私が所属している西淀川・淀川健康友の会で、災害について班会というものをやったんです。そのときには、どう見ても防災訓練に出られそうにない高齢者の方が来られて、説明を聞く中で高いところに避難しなければならないねという話が出たときに、たまたま居合わせた高層住宅に住んでおられる方と、低層住宅に住んでおられる方が、「じゃあ私のうちへおいでよ」という話になりまして。つながりがやっぱり1つの命を救うのかなということで、他にももっと、高齢者の方が参加できて、つながりで命を救えるようなことができないだろうかという問題意識でございます。

以上です。

○大垣議長

ありがとうございます。

○西尾課長

ありがとうございました。

それでは、資料3-2「災害時の避難支援のために」ということで、区の施策を簡単に説明させていただきたいと思います。

それでは木村課長、よろしくお願いいたします。

○木村課長

安全まちづくり担当課長の木村でございます。

私からは、資料3-2「災害時の避難支援のために」ということで、区で進めています個別避難計画の取組について、簡単にご説明させていただきます。

もうご存知の方もいらっしゃるかと思いますけども、個別避難計画というのは何かということからご説明しますと、要支援者お一人お一人の状況に合わせまして、必要



な支援等を記載した計画が「個別避難計画」というものでございます。

災害が発生したときにスムーズに避難支援を行うために、地域の方と共有し、見守り活動を通じて顔の見える関係づくりを進めていきたいということで、こういう個別避難計画をつくっていかうということで今動いている次第でございます。

作成の対象者としましては、避難行動要支援者の名簿登載者の方で、資料の下の方に書いてあるいずれかの方ということになってございます。

次のページでございます。

その他の取組といいますか、計画をつくる背景がでございます。東日本大震災とか直近の豪雨災害が起きておりますけれども、一番被害が多く出るのが高齢者の方である、障がい者の方が犠牲になっているという事情がでございます。

これによりまして、令和3年5月に災害対策基本法が改正されました。それにより、個別避難計画の作成が市町村の努力義務になった次第でございます。そういった状況を見てこうした計画を今進めているということで、西淀川区の取組はどのようにしているのかですけれども、今現在、各地域の自主防災組織の方や福祉専門職の方と連携して取り組んでございます。その中でも、優先度が高い方につきましては、福祉専門職の方を中心にご協力いただきながら重点的に進めている次第でございます。

昨年度からモデル地域を選定して進めております。令和4年度は2地域、実は進めておりまして、今年度3地域を進める予定で、今現在、調整、それから地域のほうに入ってお話を進めているところでございます。

簡単ではございますけれども、私からは以上でございます。

## ○西尾課長

ありがとうございました。

それでは、資料3の進め方に沿って、各テーブルでグループ討議を始めていただくのですが、まずは、テーブルを分けていただきたいと思います。

こちらの2つのテーブルは「子育てしやすいまちづくり」。こちらの2つのテーブ

ルが「災害時の支援が必要な方への取組み」の議論ということで、皆さんが議論したいと思うほうへ分かれていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

すみませんが、席移動のほうをよろしくお願いいたします。

(グループ移動)

#### ○西尾課長

それでは、グループ討議の資料3に沿って始めていただきますが、担当課長には入っていただいて、ほかの課長も議論を聞いていただきますよう、よろしくお願いいたします。

最後に発表をしてもらうことになりますので、皆さんどこかで、発表者を決めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、まず、各自の検討内容について付箋に書いていただきますようお願いいたします。約3分間で、各自で考えていただきますように、よろしくお願いいたします。

それでは、始めてください。

(グループ討議)

#### ○西尾課長

それでは発表に移りたいと思いますが、1番に発表したいと思われるグループ、お願いしてよろしいですか。

#### ○多田委員

4班の多田です。よろしくお願いいたします。

4班は災害時支援が必要な方への取組というテーマで議論をさせていただきまして、まず現状というものを整理しました。

個別避難計画は大阪市24区で作られていますけれども、まず大きな問題点として、大阪市がその要支援者のリストを作っていますけれども、それは一応任意であり、「助けてほしいよ」という人だけが情報公開して、それが各地に情報として下りている。逆に個人情報の壁というかプライバシーの問題で、全体を把握できているわけではない、というところが1つ。

そういうのを助けていくための基本的な単位として防災リーダーや自主防災組織もあるけれども、そういうのは何が母体になっているのかというと、町会ですよという話になってくると。

では町会が万全なのか？というところでもなくて、町会の加入率も下がっているし、地域コミュニティはどんどん脆弱になっていると思うし、町会と地活協の違いがよく分からないとか、そういう感じになってきてしまっているという現状もあると。

当然、障がいをお持ちの方も要支援者だし、最近はインバウンドも含めて外国人の方が非常に増えてきているので、そういう方に日本の避難表示を見せたところでまだ「よく分からない」という意見があるというところも現状として挙げられていました。

抜本的な解決として、町会の仕組み自体にメスを入れる必要があるのではないですか、というのが1つ。ちょっと防災から外れるけど、やっぱり我々若い世代にとって、町会に入るメリットがなくなっている。役とか、わざわざ集まって会議をしなければならないとか、そういう煩わしさがあるのかなと思う。例えばそういうのをオンライン化したり、町会費を電子決済したり、LINEやチャットの的なものでいろいろ仕組みを回せるというような工夫ができて、なおかつ、皆から集めた町会費は、特に防犯灯もそうだし、災害の備蓄にも回されます、というところがちゃんと周知できれば、そういう新しい町会の仕組みを作って周知していけばいいのではないかなと。

それをするためにやっぱり一番大事な話は教育という話にもなったのですが、小学校とか中学校の力、町会とか防災も含めてですけど、地域コミュニティがどうあるのか、どういう仕組みで町が動いているのかと、公民の授業の問題ですよという話

にもなり、小学校とか小さい頃から、「地域はこういう仕組みで動いていて、自分たちも成長したらその一員になるんだ」みたいなことを教育していかなければいけないというのが大元の問題としてある。

個別避難計画の策定が進んでいますけれども、個人情報の問題に阻まれたり、助け合いが、あまり考えたくないですけど、もしも助けられなかったときの責任感もあってなかなか進みづらいのだろうなと思うのですけど。私たちの班で話し合ったのは、個別避難計画は別に要支援者だけのものではなくて、全員に個別避難計画をつくってほしいと。例えば、健常な人でも津波が来るまで116分というタイムリミットが西淀川にはあります。そういうときに、「自分はちゃんと準備をしておいたら、大体10分もあれば、近くの津波避難ビルに逃げられます」「じゃあ残りの時間、あそこのおじいちゃんを助けられるよね」みたいな状況の把握、正しい情報を仕入れて自分の計画をつくった上で初めて要支援者の避難計画を考えられるのではないかなという。今の漠然とした状態でその要支援者の人だけを見ても、計画を立てていきましょうというのは難しいのではないかという意見も出たり。

あと、実は意外と支援が必要な存在として、昼間人口というか、働くために西淀川に來ている人がいっぱいいると思います。そういう人って、津波の心配がない地域から來ている人も多いと思うんですよ。特に大阪の湾岸部は昼間人口が多くなる。そういう人たちは西淀川の災害リスクをあまり分かっていないですよ、実は要支援者ではないかということだったり。

地域の百歳体操もそうだし、ふれあい喫茶もそうだし、そういうコミュニティもまず支援として大事ですよ、ということもあつたし、最近いろんな地域でされていますけど、いわゆる黄色いタオル、黄色リボンとかそういうのを掲げて「うちはもう安全確保できているから心配しないで大丈夫」というようなところをちょっとずつ広げていって、本来だったら20件を安全安否確認しなければならないところを5件でよくなる、というような地道な努力が必要ですよ、ということ。

あと、こういう問題って、「もう自分は助けんでええわ」「もうほっといてほしい」「自分はもう大丈夫だから」という人が絶対出てきてしまうし、「こういう対策ができてない」と行政に文句をつける人もいるわけですけど、逆に言えば、そんな簡単に自分の命を人に任せていいのですかというところ。行政も十分対策しているし、知識も広めてちょっとインターネットにアクセスしたら正しい情報が得られるというときに、やっぱり自助、自分で何としても自分で助かるということを意識として広めることは、一番基本的な、本当に基本的な話だけれども重要ですよ、というような結論に最後に至りました。

すみません、以上です。

(拍手)

#### ○西尾課長

ありがとうございました。

それでは、「災害時に支援が必要な方への取組み」ということで、こちらのテーブルお願いいたします。

#### ○藤江委員

こちらのチームも、防災の支援が必要な人のためにということで話をして、割と同じようなことを議論していました。

山本さんが最初にテーマについてお話したように、近隣の人とのつながりが薄いので、何とか周りで何かあったときに手助けしてもらえそうな人がいてほしい、というお話からスタートしました。

そもそも地域側からしても、障がいがある人やちょっと動くのがしんどい人が訓練とかに来ないので、「そもそもニーズがよく分からない」というお声もあって、今の訓練の中ではそういう訓練があまりできてないのは問題ではあると。ただその人らにどう伝えて来てもらったらいいかと。

ここではですね、まず「訓練に行きたい」とそういう人たちに町会に言ってもらう、

事前に。そして町会のほうも「それだったらこういう対応をしましょうか」という相談が始まれば少し具体的になるのではないか、というのが1個出ました。

やっぱりふだんから付き合いがないと人間関係をつくっていけないので、それをつくっていくことが大事ですよ。施設もそういう間を取り持つ関係をつくっていかうということで今も動かれているので、そういう施設を通じて防災のことも伝え、日頃のつながりをつくっていくこともできたらいいよね、というところまではいきました。

ただ、施設のサービスを受けておられない方もおられるし、1人で暮らしておられて、ふだん地域と関係を全然持っていない方もいるので、その方にはゆくゆくは何か伝えていかないといけないよね、ということになりました。町会でもこういう話が大事なので、ぜひ話をして理解を求めていくということは賛成するのではないか、という意見があります。

ここでまた町会の話になったのですが、町会に入っている人が減っている。若い人が入ってないと、災害のときも動けないということがあって、町会のよさを伝えていく、災害のときにお互い助け合える関係ができるというのがやっぱりメリットなのではないかという結論にもなりました。

年に1回でも、お金を取りに行くときに顔を合わすだけでも知っていると、顔を見たことあるという関係性ができるので、何とかそういう関係をメリットとして伝えていって増やしていきたいなということになりました。

(拍手)

#### ○西尾課長

ありがとうございました。

#### ○大西委員

こちらの班は「子育てしやすいまちづくり」ということで、話を進めています。

お母さんは産後すぐの時点で、お産が終わって1週間もない入院期間の間に、子育て

てについて看護婦さんにちょっとだけ教えてもらって、そのまま家に放り出されるわけなのですけれども、家の中で何かつまずいたときに、ちょっとすぐに聞けるような相手というのが、地域の中、本当に隣近所にいらっしゃれば、もっと子育てがしやすいのではないかなというお話が出ています。

経験者からすると、本当に些細なことだったりはそののですけれども、いざ当事者になってみると、ちょっとした高熱だけでもパニックになってしまったり、どう対処していいか分からなくなるということが多いので、そういうところに相談しやすい地域、広い単位だと役所から検査の派遣などもしていただいているのですけれども、常日頃話ができる顔の見える関係性というところでは、もっと狭い地域の単位で知り合いを増やしていったって、お互い助け合いができるような状況というのをもっと続けていったほうがいいのかというお話です。

そういったことを続けていく中で、地域にもつながっていただいて、ゆくゆくは地域の担い手であったり、隣の班でもありましたように、いざ災害が起こったときにお互い気にかけていく関係性だからこそ、助け合いが災害時にもできるのではないかなということでお話をしています。

自分の班は、以上です。

#### ○西尾課長

ありがとうございました。

(拍手)

#### ○西尾課長

では、最後の班よろしくお願いいたします。

#### ○吉田委員

僕たちの班も、先ほどと同じ子育てについて議論させていただいたのですけれども、まず、子育てに入る前に、出産前のときに、お母さんたちが母子手帳を取りに区役所に行くと思うんですけれども、それが単なる手続の場ではなくて、そのときから何か

つながりがあればいいなという意見をいただきました。

もちろん、そのときは手続だけのほうがいいお母さんもあると思うので、「そのときに区役所のほうに行けばいい」あるいは「こういう場所に行けばいい」というのを、1つ何か困ったことがあったら「この場所に行けばいいよ」というのを教えてくれる場。この前の区政会議でも窓口のことで、「どこに行ったらいいか分からない、そのために1つの窓口に行ったら、ここに行ったらいいよというのを教えてくれる場があればいいな」という意見をいただいたのですけれども、その子育てバージョンみたいな場所があればいいなと思いましたし、それが場所でもいいですし、「ここにこういう問題があって、こういう相談があるんですけど、どこに行ったらいいか」というのをLINEで教えてくれる、母子手帳を取りに来る段階でそういうことを周知することができれば、お母さんにとっても、出産前からここに行けばいいかというのを知れる機会になるかなと思います。

それから、出産前の段階で子育てに関して、あるいは出産前の段階から区役所とつながりがあって相談などしている場合に、もしそこで信頼できる人を見つけられるのであれば、その人と出産後もコンタクトできる、そういう環境づくりをもっと区役所が後押しできればいいのではないかという意見がありました。

それから、子育てプラザや「に～よんステーション」のように年齢に合わせてお母さんの支援施設もあると思うんですけれども、どうしても僕たちは既存の枠組みにとらわれた上で「こういう支援ができるかな」という話をしがちだと思うので、もっといろんな選択肢、お母さんにとっても子どもにとっても選択肢が広がっていけばいいかなという意見がありました。

ただ、場所をどんどん設けていくっていうのも難しい話だと思うので、既存の店舗であつたりとか、あるいは、もともとあるカフェとか、そういう地域の民間団体の場所を借りてそこで議論というか、子育て支援の場を設けたりすることもできればいいのではないかという話も出ました。



それから、もっと前の段階として、僕たちは若いときに、区役所というのは単に書類を出しに行く場所であると思っている人がやっぱり多いと思うので、子どものときから、区役所というのは単に書類を出しに行く場所ではなくて、役所の人と双方向にやり取りできる、いろんな人がいていろんな話をできる場所だと、職場体験であったりとか出前授業だったりとか子どものときから当たり前に、区役所について認識を変えていくことができればいいかなと思いました。

それから最後、子育てプラザであったり、「に～よんステーション」だったり、もとともいろんな地域の方が協力をしてくださって、そしていろんなお話を日頃から聞いてくださっているんですけども、どうしても発達に関してであったりとか、センシティブな内容を扱うのが難しかったりとか、そういう答えるのが難しい問題に関して、行政がもっと広く情報を提供することができれば、そういった場所で当事者の方々、子育て支援に当たってくださっている方々への支援もできるのではないかなというのを僕たちは考えました。

以上です。僕たちの発表を終わります。ありがとうございました。

(拍手)

## ○大垣議長

ありがとうございました。

ご意見を、本当に長時間ありがとうございました。ただいま、「子育てしやすいまちづくり」と「災害時に支援が必要な方への取組み」で分かれて、今回はもう一つ前向きで掘り下げて、2つのテーマという形の下で話をしてもらいまして、発表という形を取っていただきました。

これだけの問題でも、知恵を出しながら前向きに話をしていってもらいまして、我々としましては理解をしながら、また行政とお話をしってもらうということになっていきますので、どうもありがとうございました。

それでは、出席をいただいております、区選出の市会、府議会の先生方の皆様から

のご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

まず、市会の佐々木議員からお願いいたします。

#### ○佐々木議員

どうも今日は貴重なご意見聞かせていただきましてありがとうございました。防災も子育ても、各テーブルを回って聞かせていただいた中で、地域のつながり、ふだんからのつながりの大切さというのを、どこも同じように仰っていたのが大変印象に残りました。

そういう意味では、西淀川というのは可能性があるなと思いましたし、そういうときに、誰かが声をかけていくとか、その第一歩というのをどのようにしていくかが大切だなと感じました。

私自身も子どもが4人いまして、知らん間に家を出て行っているときに近所の方に声をかけていただいたり、知らない間に帰ってきたら、手におやつを持って帰ってきたり、そんなこともありました。

また、防災のときでも、避難訓練に来ていただける方はそういう情報も伝わると思うのですが、そこに来られてない方に、いかに伝えるかがものすごく課題だなと思っています。

私、前も言ったことあるのですが、区長にぜひやっていただきたいのが、連合ごとぐらいにデジタルサイネージの掲示板を作っていただいて、何か情報が即伝わるとか、子育てのときに困ったらここに連絡したらいいよとか、そんなものが1つあればリアルタイムで伝わるのではないかなと思ったりしています。

コロナも明けて、いよいよ地域でいろんな行事もスタートしている中なので、そこを1つの機会にして、また子育てのためにも、地域のつながりができる場が広がっていけばいいなと感じました。

以上です。ありがとうございました。

(拍手)

○大垣議長

ありがとうございました。

続きまして、山田かな議員、よろしくお願いします。

○山田かな議員

こんばんは。遅い時間までお疲れさまです。山田かなです。

今回のテーマ、「子育てしやすいまちづくり」と「災害時に支援が必要な方への取り組み」。2つとも突き詰めていくと、やはり佐々木議員がおっしゃったように地域コミュニティの質と量を上げる、ここに行き着くのかなと感じます。先ほど多田委員がおっしゃっていましたが、その在り方を変えていく、考える必要があるのかなというのも、すごく気になったフレーズです。

私、今、市政改革のほうに入っているのですが、その中での勉強してきたところの情報共有というところでありますと、ある市では、町内会の加入率を上げるために、区役所のところに案内を挙げているところもございました。また先ほど吉田委員が言っておられましたけれども、「そこに行けばいろんな情報が、窓口を回らずにも取れる」という専門家を予約して相談に行くことによって、相談の内容に応じて専門家の各課の方が出向いて、解決を早めることができるといった試みもある、ということだけを、情報として共有させていただきました。

本当に遅い時間までお疲れさまでした。このチームからコミュニティが広がっていくことを願っております。

以上です。

(拍手)

○大垣議長

ありがとうございました。

続きまして、府議会議員の中川議員から、よろしくお願いします。

○中川議員

皆さん、夜遅くまでお疲れさまでございました。

府議会議員の中川誠太でございます。

今日もいろいろと皆さんのお話を聞かせていただいて、私自身、便利であるべきかなと思っていたんですけども、この便利になりすぎているというのが区役所、大阪市のみならず全国でよく起きていると思うんです。区役所に行って住民票を取ることも今の時代コンビニでいけるとか、お母さん方もお忙しい中で、区役所へなるべく行かずに便利でオンライン手続でやっていこうと進んでいく時代に、これからもなっていくと思うんです。

お話を聞いている以上は、何かのきっかけでつながりをつなげていく、これが非常に大切ではあるんですけども、一方で便利になりすぎているこの時代にどうやって共存していくかというのが非常に大切なことなのかなと思っておりました。

本当にこれからですね、何かのきっかけで皆さんとの一つ一つの縁を広げていく、そしてこのつながりで、1人の目の前の方でも救えるような、手を差し伸べられるような、時代は進んでもそうなれるようになっていただきたいなと思っております。

最後に、今回2年間か4年間で、区政委員を勇退される方もいらっしゃると思います。長きにわたりまして、皆さんのご意見をたくさん聞かせていただきまして、本当にありがとうございました。府の方でも、区政会議委員の皆さんの意見を反映して、様々な政策を実行させていただいたこともたくさんございます。また新しく入るメンバーも含めてですね、これからも残っていただける方々に対しては、引き続き、私たち議員や区役所の方々に、ご意見ご要望などをいただけましたらと思っております。

これからも引き続きよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

## ○大垣議長

ありがとうございました。

最後に区長から、会議の総括ということで、よろしくお願いします。

## ○中島区長

どうも皆様、長時間にわたりご議論をいただきまして、ありがとうございました。

非常に貴重な意見をいただきましたので、区役所でできること、これは淡々とやりましますし、また地域の方あるいは各種団体の方と相談すること、これも今日の議論をきっかけに、ぜひ議論をさせていただきたいと思います。

また皆様におかれましても、各種いろんな団体に属されていると思いますので、ぜひその中でも「こういう議論があったよ」と議論を深めていただき、区役所に戻して上手く循環化されることで、一步ずつ前に進めていけたらなと思ってございますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

それから、今回の会議で区政委員が最終だという方がいらっしゃると思うのですが、けれども、本当に長い間ありがとうございました。今後ともぜひ区政に、ご意見あるいはご協力をよろしくお願いします。

また、今後とも区政委員を続けていただきます方は、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。西淀川区をもっと「住み良い」「住むならやっぱり西淀川」と言われるまちに、皆さんと一緒にしていきたいと思ってございますので、今後とも皆様のご協力、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

(拍手)

## ○大垣議長

ありがとうございました。

その他、事務局から案内をお願いします。

## ○西尾課長

区長もおっしゃられたように、このメンバーでの区政会議も本日で最後でございます。委員の皆さん、本当にお疲れさまでございました。

今後も、区政会議委員の方も、区政会議委員であった方も、何かと区役所と連携を

取りながら、一緒になってこのコミュニティをしっかりしていきたいと思っております。皆さんお気軽に、いろいろご相談ご連絡いただけたらありがたいなと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

#### ○大垣議長

本当に、ありがとうございました。

今、事務局からもあったようにこれで一応は終わりということですが、本当にいろんなお話を聞かせてもらいまして、私も議長をやりながら、どのようにこれから進めていけばいいかということもありますので、頭の中に入れながら、まだまだこれからやっていきたいなと思っております。

本当にいろんな意見を出していただいたということをまたここに残しながら、2年先の西淀川区制100周年というものがそこに来ていますので、前向きな形のことを、前に進めていけるかなということもしておりますので、皆様方の協力のほう、ありがとうございました。

これをもちまして終わらせていただくのですが、次回の開催は12月20日ということでしていきたいなと思っておりますので、本当にありがとうございました。

—了—